

2013 年度秋季大会の告示

I. 大会の案内

1. 期 日

2013 年 11 月 19 日 (火) ～21 日 (木)

懇親会
第 3 日 (11 月 21 日)
午前：口頭, ポスター
午後：口頭
2. 会 場

仙台国際センター
仙台市青葉区青葉山
<http://www.sira.or.jp/icenter/>
3. 研究発表

気象学に関する学術成果の研究発表を募集します。研究発表の詳細につきましては下記「IV. 研究発表要領」をご参照下さい。
4. 大会日程

大会は以下の日程で行われる予定です。

第 1 日 (11 月 19 日)
午前：口頭
午後：口頭, ポスター

第 2 日 (11 月 20 日)
午前：口頭
午後：授賞式, 受賞記念講演, シンポジウム,
5. シンポジウム

大会第 2 日 (11 月 20 日) の午後に開催予定です。テーマは「CO₂ 研究の新展開」です。
6. 懇親会

大会第 2 日 (11 月 20 日) の夕刻に, 仙台国際センターにて開催予定です。
7. 大会ウェブサイト【2013 年 7 月 2 日 (火) 開設予定】

本大会では, 大会ウェブサイトを, 2013 年 7 月 2 日 (火) より開設する予定です。講演申込み受付や大会プログラムなどの詳細につきましては, こちらをご参照下さい。URL 等につきましては, 気象学会ホームページ (<http://www.metsoc.or.jp/>) をご参照下さい。

II. 大会参加手続き

1. 講演を行う場合の参加申込方法

天気本号掲載の「日本気象学会 大会発表規程」を熟読の上, 講演の申し込みを行って下さい。

原則として大会ウェブサイト上からオンラインで行って下さい。オンラインで大会予稿原稿を送付できない場合や, クレジットカードによるオンライン決済ができない場合など, 止むを得ない事情がある場合は, 郵便振替による申込を受け付けます。

なお, 大会参加登録・参加費支払済みであることを講演申込資格とさせていただきますのでご注意ください。

1.1 オンライン (クレジットカード決済) による申

込

- ・締切：2013 年 7 月 30 日 (火) 15 時 (日本時間)
- ・大会ウェブサイト参照し, 指示に従って申し込みをして下さい。
- ・大会ウェブサイト上で最初に個人情報と ID・パスワードの登録を行います (前回の ID・パスワードはそのまま利用することはできません。お手数ですが, 改めて個人情報と ID・パスワードの登録を行って下さい)。この ID とパスワードによって登録システムにログインし, 大会参加登録・講演申込・大会予稿送付・大会参加費決済などを行います。

- ・個人情報とID・パスワードの登録は講演者本人が行ってください。申込締切後、プログラム編成を支障なく進めるために、登録された個人情報は講演者本人のものであることが必要です。また、一つのIDで、講演者の異なる2件の講演申込を行うことは控えてください。ご協力をお願いします。
- ・講演申込の前に、予め大会参加登録と大会参加費の払込(クレジットカード決済)を行って下さい。大会参加登録と大会参加費の決済が済んでいない場合、講演申込は受け付けられません。
- ・オンライン決済の際には、個人情報登録者本人以外の名義のクレジットカードも使用可能です。
- ・大会予稿原稿もウェブサイトよりご送付下さい。ファイル形式はPDF(容量の上限は1MB)に限ります。
- ・講演に関する要望がある場合は所定の欄に記入して下さい。要望事項は、プログラム編成時に可能な限り考慮するように努めますが、諸事情により要望に沿えない場合があるのでご了承下さい。なお、口頭発表の発表日時の希望は原則として受け付けません。また個別の要望についての回答は致しませんので、併せてご承知おき下さい。
- ・講演申込み締め切り(7月30日(火))までは、ウェブサイト上で、一旦申し込んだ講演申込の登録内容の修正や予稿原稿の差し替えなどを行うことができます。ただし講演のキャンセルはできません。
- ・締め切り後の講演申込や予稿原稿の差し替え等は受け付けません。

1.2 郵便振替による申込【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・締切：2013年7月23日(火)(消印有効)
(オンライン申込よりも1週間早い締切となります。ご注意ください。)
- ・以下の3点を講演企画委員会事務局(下記)まで電子メールまたは郵送にてお送り下さい。
 - ① 大会予稿原稿
 - ② 講演者氏名(漢字とローマ字)、会員番号、講演種別、連絡先(住所・電話番号・E-mailアドレス)、講演題目、主・副キーワード、その他必要事項を書いたもの(様式は自由)
 - ③ 郵便振替払込受領証またはそのコピー(次項

参照)

送付先(電子メールの場合)：

kouenkikaku2013a@metsoc.or.jp

(件名に「講演申込 2013a」と明記して下さい。)

送付先(郵送の場合)：

〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1

気象研究所予報研究部内

気象学会講演企画委員会事務局

(封筒の表に「講演申込」と朱書して下さい。)

- ・講演申込の前に、以下の要領に従って郵便振替によって大会参加費を納入して下さい。
 - －口座番号は「00130-3-5958」、加入者名は「日本気象学会」です。
 - －「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。
 - ①「2013年度秋季大会参加申込」と明記
 - ②会員番号(非会員の場合は「非会員」と明記)
 - ③大会参加種別(講演者Aまたは講演者B)
 - ④大会参加費金額
 - ⑤懇親会費金額
 - ⑥合計金額
 - －「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。
 - －払込料金は本人負担でお願いします。

1.3 講演のキャンセルについて

- ・講演申込み後は、講演のキャンセルは原則として受け付けられません。止むを得ず大会参加や発表を取り止める場合でも、すでに支払われた参加費・懇親会費は返却しませんのでご注意ください。
- ・講演者の都合が悪くなった場合の代理発表については、柔軟に対応しますので講演企画委員会(kouenkikaku2013a@metsoc.or.jp)までご相談下さい。

2. 講演をしない(聴講のみ)場合の参加申込方法

以下のいずれかの方法で参加費等を納入して下さい。事務負担軽減のため、なるべくオンライン(大会ウェブサイト)による事前登録をご利用下さい。

2.1 オンライン(クレジットカード決済)による申込

2013年9月17日(火)までに大会ウェブサイトに参加登録し、参加費を払い込む(クレジットカード

ド決済のみ).

2.2 郵便振替による申込【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・2013年9月10日(火)までに、郵便振替で参加費を払い込む。

一口座番号は「00130-3-5958」,

加入者名は「日本気象学会」です。

—「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。

- ①「2013年度秋季大会参加申込」と明記
- ②大会参加種別(聴講者)
- ③大会参加費金額
- ④懇親会費金額
- ⑤合計金額

—「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名と振り仮名・電話番号をもれなく記入して下さい。

—払込料金は本人負担をお願いします。

2.3 大会当日に会場で申込

当日会場で参加登録をして、参加費を現金でお支払いください(当日料金は前納と比べて割高となりますのでご注意ください)。

3. 参加費、懇親会費

3.1 大会参加費

- ・大会参加費(消費税込)は以下の表の通りです。

大会参加費		
種別	前納	当日
講演者A	8,000円	—
講演者B	5,000円	—
聴講者	3,000円	4,000円

- ・講演者の種別:

講演者A: 研究機関・大学に所属する講演者(ただし、学部生・院生は除く)

講演者B: 講演者Aに該当しない講演者

- ・講演件数が2件の場合も大会参加費は変わりません(講演件数による加算はありません)。

3.2 懇親会費

- ・懇親会費(消費税込)は以下の表の通りです。

- ・懇親会費はオンラインもしくは郵便振替で参加費と同時に前納することができます。また当日会場で支払うことも可能ですが、当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意ください。

懇親会費		
種別	前納	当日
一般	4,000円	5,000円
学生	2,000円	3,000円

3.3 その他

- ・一旦支払われた参加費・懇親会費は返却しません。
- ・大会参加費・懇親会費の種別は、支払い時点での所属によって判断して下さい。一旦支払われたあとの所属変更などによる種別の変更は行いません(追加の支払い請求や差額の払い戻しなどは行いません)。
- ・領収書は大会当日受付で発行させて頂く予定です。
- ・参加当日は、参加登録・決裁完了メールのプリントアウト等を持参いただくと、よりスムーズに受付を行うことが可能です。

Ⅲ. 大会予稿原稿作成要領

1. 原稿サイズ・枚数

1件あたりA4判1枚とします。

2. 作成方法

大会ウェブサイトから申込みをする場合のファイル形式はPDF(容量の上限は1MB)とします。郵送

する場合はA4用紙に直接出力するか、別紙に作成した文書・図表を用紙に糊付けして下さい。

3. 印刷

原稿はB5サイズに縮小されて白黒でダイレクト製版されます。階調のある写真や図は、明瞭度が落

ちる場合がありますので作成時にはご注意ください。
特に、カラーの写真や図は明瞭度が極端に落ちる場合がありますので、予めご承知おき下さい。

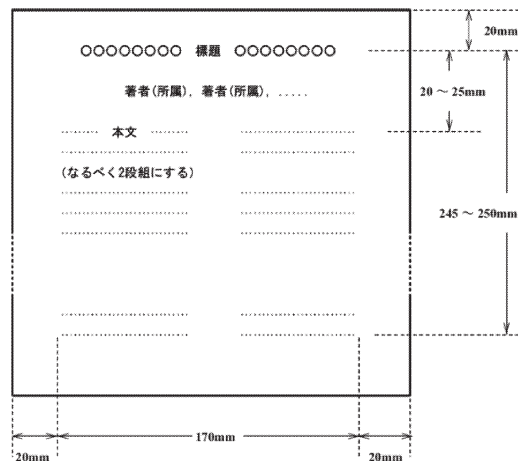
4. 配置（付図参照）

記載範囲は縦 250mm×横 170mm 以内とし、上部には 20mm の余白をとって下さい。最上段に講演題目、その下に著者と所属を書き、本文をその下につけて下さい。著者が複数の場合には講演者の左肩に＊をつけて下さい。講演題目から本文までの間隔は 20～25mm として下さい。本文は原則として 2 段組（左半分→右半分）にして下さい。

5. 著作権

大会予稿集に掲載された文章および図表の著作権

は（公社）日本気象学会に帰属します。



図：A4判用紙による大会予稿原稿の作成要領

IV. 研究発表要領

1. 発表の種類

講演方法には、口頭発表（スペシャル・セッションを含む）とポスター発表の2種類があります。

2. 発表件数の制限

1 講演者あたりの発表件数は 2 件以内とします。ただし内容がほぼ同一と見なされるテーマでの 2 件の発表は認められません。この制限に抵触する申込があった場合には、講演企画委員会が適切に対応します。

3. 講演方法の選択について

講演方法（口頭／ポスター）につきましては講演申込時に選択できますが、申込件数や会場の都合等により希望通りにならない場合があることを予めご了承下さい。なお、講演申込時に講演方法の希望がない場合は、講演企画委員会の裁量で振り分けを行います。

4. 口頭発表の概要

口頭発表の講演時間は全て同一とします。1 件あたりの講演時間は、口頭発表に配分された時間の総計を申込件数で割ったものを目安として講演企画委

員会が決定し、大会プログラムに掲載します。

5. スペシャル・セッションの概要

- ・セッションの各講演の講演時間は世話人が決定し、大会プログラムに掲載します。
- ・セッションへの講演申込み締切日は一般講演と同じ（オンライン申込は 7 月 30 日（火）、郵送申込は 7 月 23 日（火））です。
- ・セッションに申し込まれた発表については、世話人が大会予稿原稿を審査して、当該セッションでの発表を認めるかどうかを判断します。
- ・セッションに申し込まれた発表が、世話人によって当該セッションに不適当と判断された場合には、一般発表に振り替えます。
- ・各セッションの詳細につきましては、「V. スペシャル・セッションのテーマと趣旨」をご参照下さい。

6. ポスター発表の概要

- ・ポスター発表の時間は 1 時間程度とします。ポスター発表の時間には他の行事は行われません。
- ・ポスターの掲示・撤去は、講演者の責任で行って頂きます。

- ・掲示スペースは縦 180 cm×横 120 cm 程度です。なお、ポスターは大きな紙 1 枚に書く必要はなく、小さい紙に分けて書いたものを当日並べて掲示しても構いません。

7. 講演における機器の使用について

- ・口頭発表(スペシャル・セッションを含む)につきましては、PC プロジェクターが使用できます。それ以外の機器は使用できません。
- ・PC プロジェクターの使用に当たっては、以下の点に留意して下さい。
 - －パソコンは各自でご準備下さい。会場にはプロジェクター及び接続ケーブルのみを準備します。
 - －セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。接続に不安がある場合は、その際に会場係に申し出て下さい。
 - －突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応をすることがあります。携帯用メディアによる

バックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようお願いいたします。

- ・ポスター会場での機器の使用を希望する場合は、機器の名称およびその使用方法を、講演申込み時に届け出てください。口頭発表への申し込みをする場合も、プログラム編成上の都合によりポスター発表に振替られた時に、機器を使用する可能性があれば同様に届け出てください。ただし会場の都合により、その要望が受け入れられる保証はありません。

8. その他

- ・大会プログラムは「天気」10月号及び大会ウェブサイトに掲載されます。
- ・口頭発表セッションにおける座長は、テーマごとに発表者の中から選ばれることが多くなっています。講演企画委員会が、座長候補者を選び、候補者へはその承諾に関する打診を行いますので、その際にはご協力願います。

V. スペシャル・セッションのテーマと趣旨

スペシャル・セッションは、あるテーマに関心を持つ会員同士が、研究分野の枠を超えて交流する機会を設けるために、1988年から始まったものです。一般の大会発表と同様、会員はどなたでも講演申込できます。

本大会では以下の7件のテーマでスペシャル・セッションが行われます。

1. 「全球降水観測計画「GPM」主衛星打上げと新たな降水観測」

趣旨： 全球降水観測計画「GPM (Global Precipitation Measurements)」は、日米 (JAXA/NASA) を中心とした各国宇宙機関の協力で進められている。日米共同開発の GPM 主衛星は、2014 年初めの種子島宇宙センターからの打上げを控え、現在米国 NASA/GSFC において組み立てと試験を実施中である。本衛星には JAXA と情報通信研究機構が開発した二周波降水レーダ (DPR) が搭載される。

熱帯降雨観測衛星 TRMM 搭載のレーダと同様の Ku 帯に固体降水にも感度を持つ Ka 帯を加えて、北緯 65 度から南緯 65 度までの降水の 3 次元観測を可能にする。GPM は、この DPR 観測を核に、マイクロ波放射計搭載のコンステレーション衛星 (GCOM-W1 を含む) が連携し、ほぼ全球の降水を高頻度高精度で測定する計画である。本セッションでは、間近に迫る GPM 主衛星の打上げにより期待される新たな降水観測について議論し、より多くの気象研究および応用研究への有効利用を促進することを目的とする。

世話人： 沖理子 (宇宙航空研究開発機構)、高藪縁 (東京大学大気海洋研究所)、中村健治 (獨協大学)、井口俊夫 (情報通信研究機構)、牛尾知雄 (大阪大学)

2. 「大気-陸面間の水・エネルギー・炭素フラックスに関する最新研究 2013」

趣旨: 陸域の水、熱、炭素循環(以下、WEC 循環)は、大気循環をコントロールする重要な素過程である。WEC 循環の研究では、気象・気候学や生態学、林学など、様々な視点から数多くの研究成果が挙げられてきた。しかし、時空間スケールや対象領域、手法(地上観測、リモートセンシング、モデル)が多岐に渡る分野横断型の研究であるため、WEC 循環に直接関わる異分野の研究者が一同に会する機会は少なく、情報共有が必ずしも十分に進んでいないのが現状であった。そこで、本分科会では、WEC 循環に関する情報共有、及び包括的な理解による新たな課題の創出を目的として、手法や時空間スケール、対象地域ができるだけ異なる若手研究者を中心に講演頂く予定である。極域から熱帯まで、それぞれの研究フィールドでの最新の科学的知見を基に、大気-陸面間の WEC 循環の研究動向や今後の方向性について情報交換を行いたい。

世話人: 吉田龍平(東北大院理)、佐々井崇博(名大院環境)

3. 「雲エアロゾル放射観測衛星「EarthCARE」の打ち上げに向けて」

趣旨: 日欧協力のもと雲レーダやライダーと光学センサーで全球の雲・エアロゾル・放射を観測する衛星計画「EarthCARE (Earth Clouds, Aerosols and Radiation Explorer)」は開発試験フェーズを終えて、いよいよフライトモデル製作に着手しようとしている。ドップラ観測機能を持つ雲レーダやミー散乱とレイリー散乱を分離できる高スペクトル分解ライダーなど新規のセンサーが開発され、そのデータ処理アルゴリズム開発が日欧の研究者で進められている。また、地上から雲やエアロゾルを観測して衛星の観測精度を確かめる地上検証計画も本格的な検討を開始したところである。本セッションでは、EarthCARE 衛星搭載センサーの開発状況を報告するとともに、アルゴリズム開発と地上検証の状況と課題、そして利用研究事例などを紹介して、より多くの気象研究者に本衛星計画に対する興味を喚起したい。

世話人: 大野裕一(情報通信研究機構)、沖理子(宇宙航空研究開発機構)、岡本創(九州大学)、中島孝(東海大学)、藤吉康志(北海道大学)

4. 「中緯度海洋前線近傍の大気海洋現象」

趣旨: 黒潮に代表される西岸境界流が運ぶ膨大な熱や縁辺海での海陸分布などにより、中緯度海域には温度コントラストが顕著な海洋前線が形成される。近年の人工衛星、データ解析、高分解能数値モデルによる実験などから、海洋前線は低気圧の急速な発達や下層雲の形成、梅雨期の降水システム、さらに海盆スケールの気候形成など様々な時間・空間スケールの大気現象に対して影響を与えていることが明らかになりつつある。また、最近の研究において顕著な水温上昇のシグナルが中緯度海洋前線周辺で見られることが報告されており、温暖化時の極端気象の予測を考える上でも、これまであまり関心が払われてこなかった中緯度大気現象に果たす海洋の役割についての知識を再構築する必要がある。このセッションでは、観測研究、データ解析、数値実験などの手法に基づいた中緯度海洋前線近傍で起こる様々な大気並びに海洋現象の話題を提供して頂き、中緯度における大気と海洋との関係について季節性や地域性の観点も踏まえ理解を深めたい。台風の温低化や海陸風などの話題提供も歓迎する。予備的な研究報告や観測速報、大学院生などの若手の発表も歓迎する。

世話人: 吉岡真由美(東北大学大学院理学研究科 大気海洋変動観測研究センター)、茂木耕作(独立行政法人 海洋研究開発機構 地球環境変動領域)、川合義美(独立行政法人 海洋研究開発機構 地球環境変動領域)、美山透(独立行政法人 海洋研究開発機構 地球環境変動領域)、飯塚聡(独立行政法人 防災科学技術研究所 観測・予測研究領域 水・土砂防災研究ユニット)、万田敦昌(長崎大学 大学院水産・環境科学総合研究科)、川村隆一(九州大学 大学院理学研究院 地球惑星科学部門)、中村尚(東京大学 先端科学技術研究センター 気候変動科学分野)

5. 「気象情報の活用および気象予報士にできること」

趣旨: 気象技術の進展により、気象情報が質・量ともに急速に充実してきました。情報はきめ細くなり、確率表現や映像等によりわかりやすく使いやすなものになりました。しかし、突風・豪雨等の極端現象には予測困難なものもあるので、気象情報をユーザー自らが取得し、内容を理解して判

断することも求められます。気象予報士は、気象予報を作成するだけでなく、報道等を通じて気象情報を解説していることはよく知られています。また、民間気象情報会社により、天候に左右される企業へのサポート等が行われています。さらに、防災関係者や一般住民を対象とする講演会で気象予報士が講師をつとめる等、知識の普及・啓発に貢献しています。最新の技術を防災や産業の発展等に活用するために、橋渡し役として気象予報士は何をすればよいのでしょうか。昨年に続き、気象情報の作成・伝達、関連知識の普及等に関わる研究成果の発表とともに、気象予報士にできることを考えます。

世話人：岩田修（日本気象予報士会）、杉山公利（日本気象予報士会）、金村直俊（日本気象予報士会）、弘中秀治（日本気象予報士会）、難波良彰（日本気象予報士会）、白石晶二（日本気象予報士会）、奥語基宏（日本気象予報士会）、岡留健二（日本気象予報士会）

6. 「航空機観測による大気科学・気候システム研究」

趣旨：地球温暖化を含む地球環境問題に対応するには、地上や人工衛星からの観測に加えて航空機を用いた地球観測システムの構築と、そのための広い分野の研究者が長期的な視点から利用できる航空機の運用体制を確立することが必要である。先端的な計測器を用いた航空機による直接観測は対流圏全域を観測可能であるとともに、測定項目、精度、時空間分解能の点で優れている。本セッションでは地球観測専用の航空機の保有・占有と、それを用いた地球観測・監視システムの構築へ向けての展望を議論することを目的とする。航空機観測により成果が期待される重要課題としては、温室効果気体の変動と循環、エアロゾル・雲・降水相互作用、越境大気汚染、台風・集中豪雨・メソ降水システムの解明などなどがある。また雪

氷・海氷の動態解明や陸域・沿岸・海洋生態系観測など多くの課題への応用も期待される。これら多様な課題において、これまでの航空機観測の研究成果や観測専用機導入後の研究計画などについての発表を期待する。

世話人：小池真（東京大学大学院 理学系研究科 地球惑星科学専攻）、新野宏（東京大学大気海洋研究所）、近藤豊（東京大学大学院 理学系研究科 地球惑星科学専攻）、佐藤正樹（東京大学大気海洋研究所）、青木周司（東北大学大学院理学研究科付属 大気海洋変動観測研究センター）、篠田太郎（名古屋大学地球水循環研究センター）

7. 「近年における日本の冬の気象：気候変動、遠隔応答の枠組みからの理解」

趣旨：近年の夏の北極海の海氷面積の急速な減少やグリーンランド氷床表面の融解は、北極温暖化増幅として地球温暖化に同期した現象としてとらえることが出来る。一方、最近における日本の冬の特徴をみると、2005/06年におよそ20年振りと言われた寒冬・豪雪を記録した後も昨冬（2012/13年）を含めて繰り返り低温と大雪が観測されている。昨冬は後半（3月）に記録的な高温偏差となったが、このような冬季における振幅の増加も特徴的である。これまで、日本の冬の寒暖に対しては、エルニーニョ現象や北極振動との関連性が主に着目されてきたが、それ以外の日本ひいては中緯度全体に対する大気の遠隔応答を総合的に考察する必要がある。このセッションでは、最近の日本の冬の特徴付けを行い、さらに北極域変動、熱帯域変動、10年規模変動などとの関連を議論するために、最近の日本の冬に関わる研究発表を広く募集する。

世話人：猪上淳（国立極地研究所）、浮田甚郎（新潟大学）、高谷康太郎（JAMSTEC）、野沢徹（岡山大学）、平沢尚彦（国立極地研究所）、堀正岳（JAMSTEC）、本田明治（新潟大学）

VI. 非会員の大会講演について

気象学会会員でない方は原則として大会講演を行うことはできません。しかしながら、短期滞在の外

国人や他分野の研究者が気象学会において講演を行う場合を考慮して、講演企画委員会では以下の条件

を満たすものに限り非会員が大会講演を行うことを認めています。

1. 共著者の中に会員が含まれていれば、非会員の講演を認める（予稿に会員である共著者の氏名と所属を明記すること）。

2. ただし、スペシャル・セッションに関しては各世話人の判断にゆだねる。

なお、講演企画委員会としては、継続的に大会発表を行いたい人には会員になって頂くよう強く要請します。

VII. 研究会活動への支援について

講演企画委員会では、大会期間中またはその直前・直後に会員が自主的に運営する研究会活動に対し、一般の会員が自由に参加できることを条件として、可能な支援をします。支援を希望する方は、次の事項を明記の上、講演企画委員会（E-mail: kouenkikaku2013a@netsoc.or.jp）に申し込んで下さい。

申込期限：2013年7月30日（火）

- 記入事項：1. 会の名称とテーマ
2. 代表者の連絡先
3. 希望日時・開催場所
4. 予想参加人数
5. 希望する支援内容

VIII. 大会期間中の保育支援について

大会実行委員会では、大会期間中の保育施設として、次の施設を紹介します。

「ワールド・キッズ保育園」

住所：仙台市青葉区大町2丁目11-12

（仙台国際センターから徒歩10～15分）

TEL：022-265-1722

施設を利用される場合は、利用日の前日17時までにご利用者が直接お申し込みください。

また、保育施設利用料の一部補助を行う予定です。上記の施設以外の保育施設を利用される方もこの対象になります。いずれかの施設を利用される方は下記までご連絡ください。

連絡先：折笠 成宏（仙台管区气象台）

TEL：022-297-8160, FAX：022-297-5615

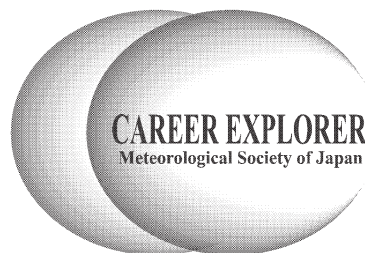
E-mail：norikasa@met.kishou.go.jp

IX. キャリアエクスプローラーロゴの試験的導入について

1. キャリアエクスプローラーロゴの趣旨

近年、社会問題化している若手・任期付研究者のキャリア形成をサポートするために、日本気象学会では、キャリアエクスプローラーロゴを2009年度秋季大会から試験的に導入しました。これは、広く学術に貢献する人材の育成および活動支援の一貫として行うもので、会員が望ましいキャリア形成のために求職中の場合に、適職に出会うのをサポートします。（同様の取り組みが応用物理学会で2007年から行われています。）

2. キャリアエクスプローラーロゴ



大会予稿や講演資料の中でこれを表示することで自分が求職中であることを表明できます。カラーと白黒のロゴの電子データを学会ホームページから取得できます。

3. 使用方法

ポスドクを含む任期付研究者や学生で求職中の会員、またはそれに準ずる会員が講演する場合に、大会予稿および講演資料の中で、キャリアエクスプローラーロゴを使用できます。

1. 大会予稿：白黒ロゴを、講演題目の左側に、余白にはみ出さないよう適度な大きさを挿入してください。
2. 口頭発表：発表資料の任意の場所に分かりやすく表示してください。
3. ポスター発表：講演題目付近の分かりやすい場所に表示してください。

4. 使用に関する注意

1. 日本気象学会およびその会員の主催する講演会においてのみ使用できます。
2. 講演会は学術的な講演・議論を目的に行われます。口頭発表の時間内は、求職・求人に関する議論はご遠慮ください。
3. ロゴは講演者本人の責任の下で使用してください。その使用により生じた如何なる利益・不利益に対しても、日本気象学会は一切責任を負いません。
4. ロゴ導入の趣旨および適切な使用方法を逸脱した使用は一切認められません。